

谷口博文の政策イノベーション



日本の安全保障政策の原点は 1945 年の敗戦です。米国の占領政策があり、憲法制定があり、平和条約がありました。

それ以来日本は、アメリカの庇護のもとに国際社会で生きるという原風景が目に焼き付いたまま、今日に至っています。

だから日本は軍事行動が求められるたびに、するかしないかではなく、できるかできないかの議論に終始しました。

つまり日本国憲法でピンどめされた法秩序に反することは「できない」という論理です。

しかし・・・

国際情勢は大きく変わりました。

当初期待された国際連合軍による国際平和維持は実現せず、すでに何度も大きな戦争を経験してきました。

戦争直後に理想とされた国際法秩序はとっくに破壊されているのです。

トランプは安保条約など関係なく、自分の国は自分で守れ、助け合いはお互い様だ、と言っています。

言っていること自体は当たり前ですが、アメリカ（イスラエル、サウジ）vs イラン戦争のどちらに加担するかは別問題です。

そこはギリギリの駆け引きの中で、何をするか、何をしないか、を決断しなければなりません。それは「できるできない」の問題ではないのです。